

第1回 唐津市総合基本計画審議会 次第

日時：令和5年8月1日（火）13：00～

場所：本庁4F 大会議室

1. 開会

2. 唐津市総合基本計画審議会委員の委嘱

3. 市長あいさつ

4. 会長及び副会長の選出

5. 諮問

6. 議題

(1) 第3次唐津市総合計画策定における基本方針と体制について 資料1 資料2

(2) スケジュールについて 資料3 資料4

ア まち・ひと・しごと創生総合戦略の統合について 資料5

イ 論点データ集骨子（案）について 資料6

(3) 市民アンケート実施方針について 資料7

(4) 職員による次の10年で行う取組みアンケート（各部提案の検討）取りまとめ
状況について 資料8

7. 閉会

第3次唐津市総合計画策定における基本方針

1. 現総合計画の考え方を基本的には引き継ぎ、新たな社会経済情勢に対応した、持続可能な地域を目指す。

現行の唐津市総合計画は、平成27年3月に策定した。

「市民力・地域力によるまちづくり」を基本理念、「海と緑にかこまれたこちよい 唐津」を将来都市像に掲げ、その実現に向けて取り組んできた。

この総合計画の中で課題として捉えた「少子高齢化」「人口減少」等の課題は、さらに進展しており、第3次唐津市総合計画を策定するにあたって、これらの課題に対応していくことは非常に重要である。

また、「感染症対策」「デジタル化の進展」など、新たな社会経済情勢への対応も重要である。

このことから、第3次唐津市総合計画の策定にあたっては、基本的に現総合計画の考えを引き継いだうえで、新たな社会経済情勢に対応しつつ、唐津市の強みや地域特性、有用な資源を最大限に活かしながら未来へつなぐとともに、必要なサービスを安定して提供することができる、持続可能な地域を目指すための取組みを推進する計画を目指すこととする。

また、現在策定している個別計画（分野別計画）についても引き継ぐものとし、必要に応じて改訂するものとする。

2. 基本構想を10年、基本計画を前期5年、後期5年とする。

現総合計画では、基本構想を10年、基本計画を前期5年、後期5年としている。

基本計画は、基本構想に掲げる基本理念、将来都市像の実現のための市の施策の方向性を体系化したものである。

基本構想の計画期間10年間の中で、中間年度における見直し等を必要に応じて行うことができるよう、第2次総合計画と同様、基本計画は前期5年、後期5年の2期に分けて、計画策定を行う。

3. 行政評価との連携を強化する。

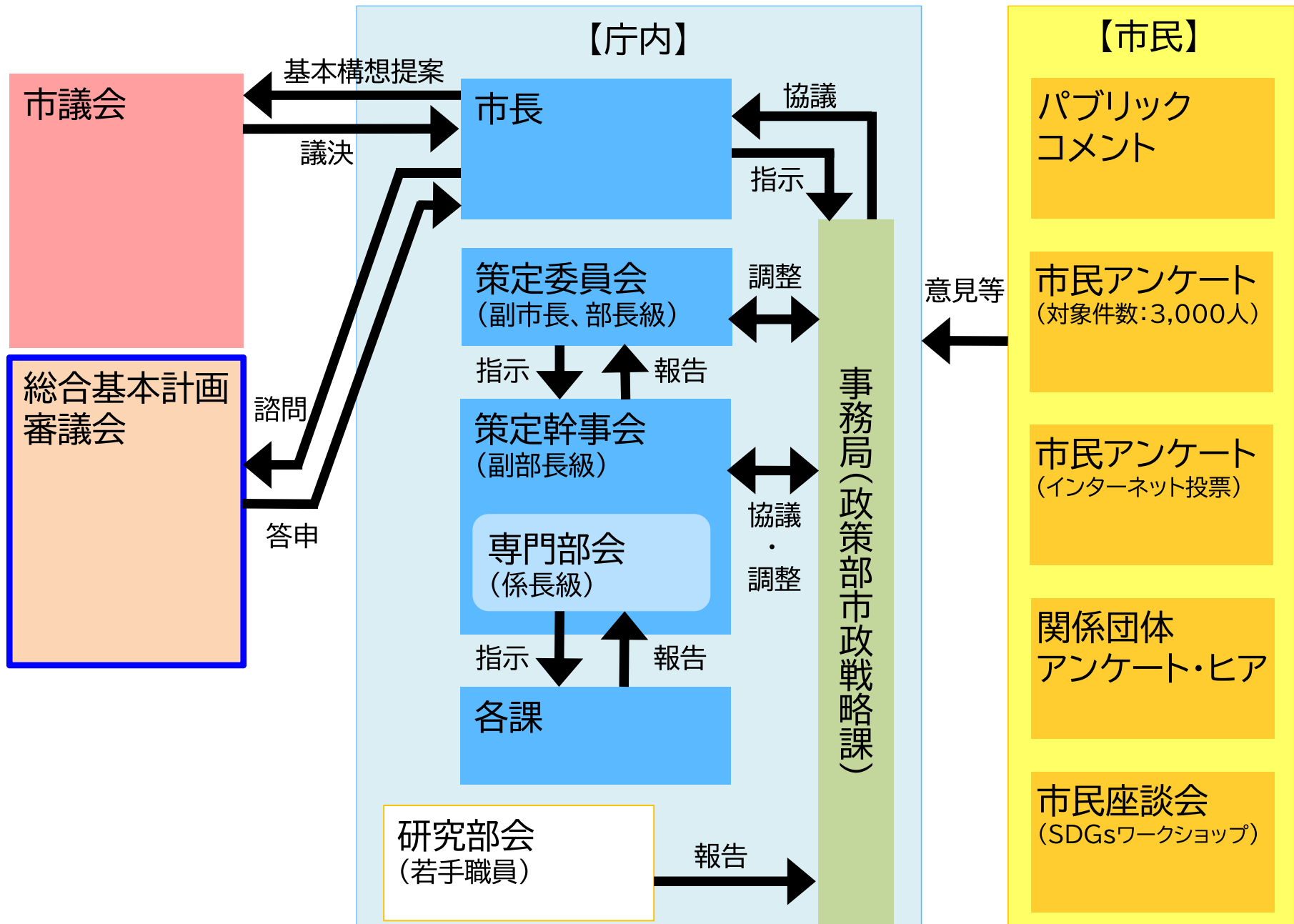
総合計画の推進は、市民の合意形成のもと、市の組織と予算によって具体化が図られるものである。

そのため、組織単位での取り組みの目標を明確にし、実施の手段である事務事業につなげていくことが合理的で効果的な方法と言える。

現総合計画においては、その進捗管理として、「行政評価」を手段として用いている。

行政評価制度については、より実効性を高めるために、第3次唐津市総合計画の策定にあわせて制度見直しを図ることとしており、これまで以上に「行政評価」との連携を強化し、計画に基づき実施する事務事業の検証および予算編成への反映を目指す。

第3次唐津市総合計画 策定体制



資料3 第3次唐津市総合計画策定スケジュール

区分		令和5年度												令和6年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
事務関係	1	庁内各部提案の検討 (次の10年の取組)																							
	2	委託事業者の選定				6/20 契約																			
	3	基礎調査 論点データ集見直し																							
	4	市民アンケート インターネット市民投票 団体アンケート・ヒアリング 市民座談会																							
	5	基本構想(案) 基本計画(案)策定																							
会議等	1	審議会						① 8/1					②												
	2	策定委員会 〔部長級〕		① 4/17			② 7/26					③			④										
	3	策定幹事会 〔副部長級〕		4/28			7/20																		
	4	専門部会 〔係長級〕		4/28			7/19																		
	5	研究部会 〔若手職員〕																							
行政経営システム再構築関係	1	行政評価再構築																							
	2	業務量調査・BPR																							
	3	行財政改革2025策定に向けたとりまとめ																							
	4	職員適正配置に向けたとりまとめ																							

基本構想骨子案パブリックコメント

基本構想案・前期基本計画案パブリックコメント

基本構想策定に係る議案3月定例議会に提案

(スケジュールは計画策定の進捗状況等により変更になる場合があります。)

資料4



第3次唐津市総合計画策定スケジュール（案）
補足資料

2023年7月

総合戦略の統合した本書構成と、その他計画全体構成

■序論（R5完成予定）

新論点データ集

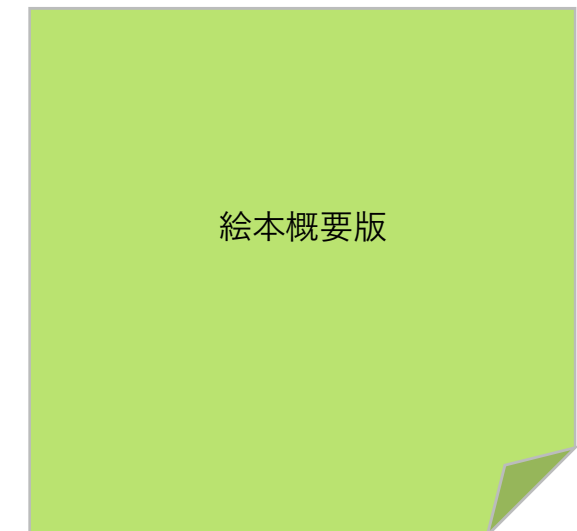
第一部 基礎データ編

第二部 個別課題編

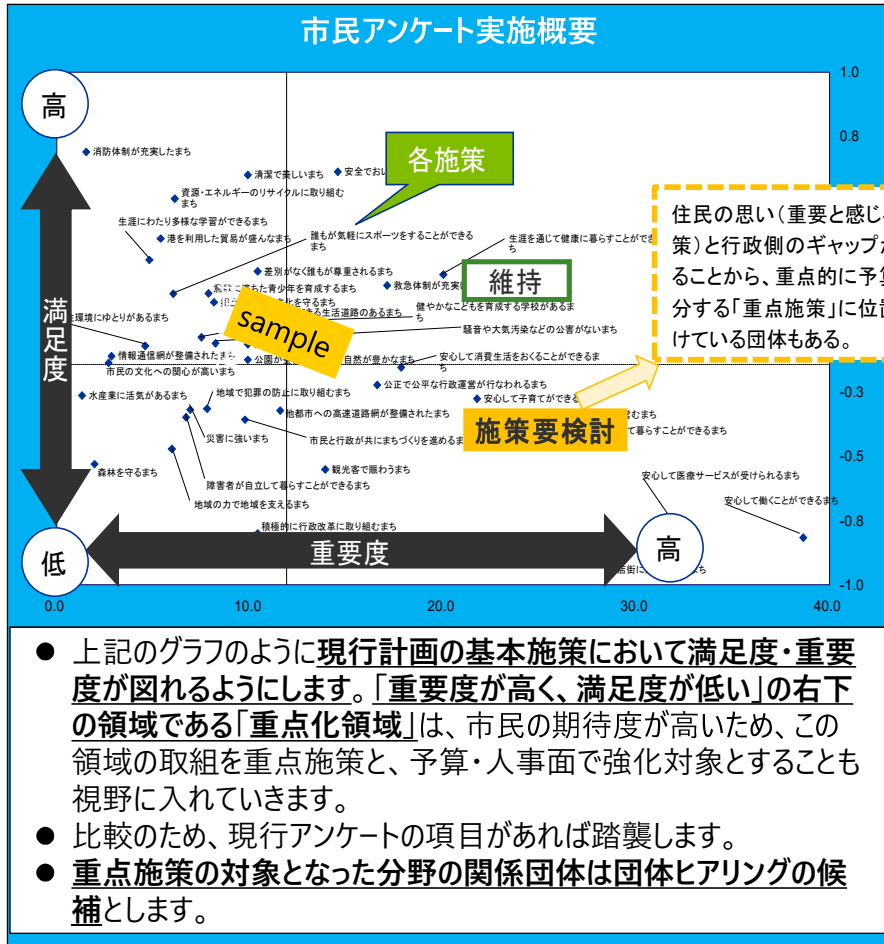
■本書（R6完成予定）

序論	I はじめに
	1 計画策定の趣旨
	2 計画の構成と目標年次
	<u>3 計画の進行管理</u>
	4 国の動向
	5 市の現状
	(1) 市の概要
	<u>(2) 第2次総合計画の振り返り・検証</u>
	<u>(3) 第2期総合戦略の振り返り・検証</u>
	<u>(4) 市民意見（市民参画の結果）</u>
(5) 市を取り巻く環境や課題	
基本構想	II 人口ビジョン
	1 策定の趣旨
	2 人口動向と推移
	3 人口の将来展望
	I まちづくりの基本方針
	1 基本理念
2 将来像	
3 まちづくりの基本目標	
<u>4 まちづくりの重点的取組1（総合戦略プロジェクト）</u>	
<u>5 まちづくりの重点的取組2（〇〇）</u>	
基本計画	II 計画体系図
	I 基本計画
	II 総合戦略
	1 戦略の方向性
	2 具体的な施策とK P I
	3 総合計画との相関図
III SDGsへの取組	

■概要版（R6完成予定）



市民アンケートと関係団体アンケート・ヒアリングの関係性



関係団体へのアンケート・ヒアリング実施概要

	アンケート	ヒアリング
対象	● 市内で活動する関係団体 (審議会策定委員の所属する団体含む)	● 次期総合計画の重点施策に関連する団体
方法	● 関係課を通じて実施 (Web調査を想定(必要に応じて紙調査の実施も可能))	● 関係課を通じてヒアリングの依頼・実施 ● 対面(オフライン) or 非対面(オンライン) どちらも可能
内容	<p>市民アンケート結果を踏まえ、深堀が必要な分野を検討するとともに、現行の団体アンケートの項目があればそれをベースとして調査項目を設計します。</p> <p>※ 前回調査結果との比較をすることで関係団体を取り巻く環境の変化やニーズの変化を把握するため</p> <p><項目例></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 取り組んでいる主な活動分野 ● 活動に関して困っていること ● 行政に望むこと ● 行政との連携状況 ● 関係団体間の連携の必要性や連携状況 など 	<p>市民アンケート結果で次期総合計画の重点施策(予算配分・人員配分を優先的に行う)候補を進める上での協働のあり方を確認します。</p> <p>※ 計画策定に関与いただくことで、計画策定後も関係団体と協働で取組を進めていく</p> <p><項目例></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次期総合計画における重点施策と市の方向性の案について情報共有 ● 関係団体へのアンケート結果の深堀 ● 重点施策と市の方向性の案を踏まえて、団体として協力できること、協力したいこと など

市民参画について

①SDGs ワークショップ（市民座談会）

市民座談会として、SDGs ワークショップを開催し、未来に向けた前向きなワークショップを実施します。アフターコロナを印象づける対面でのワークショップとなります。

ワークショップ例

- ① 市内の課題洗い出し
- ② 課題の構造化
- ③ 課題とSDGsとの関連を特定
- ④ 課題の発生場所を特定



②インターネット市民投票

対面でのワークショップのみでは特定の意見が反映される可能性が否めないため、インターネットの活用により、これまで市民参画の経験が少ない市民にもまずは手軽に参画していただき、多くの市民に市政への興味を持っていただきます。

テーマ	将来像／基本目標
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 各分野の目指すまちの姿を描く（キーワード、フレーズ） ● 目指すまちの姿の実現に必要な取組の意見出し
活用箇所	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来像、基本目標の名称 ● 基本計画の記載文



④プレ外部評価

①～③の市民参画をされて、市政への関心が高められた方々を中心に、御礼の意味も込め、計画の進捗管理に係るワークショップを実施します。行政評価の外部評価ワークショップを毎年実施することを想定し、そのプレ会を兼ねます。

開催項目	開催目的
プレ外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・策定後の参画の始まり ・評価手法の拡充

様々な層の市民参画定着

そもそも市民参画をしていた層

対面は面倒だが手軽に参画したい層

多様な市民
子育て世代など重視したい層

ワークショップ例

- ① 当法人で準備したデザイン案を見て、表紙、中面、絵本案のデザインを話し合い
- ② 現行計画書の良いところと悪いところを話し合い、次期計画にアイデア出し
- ③ 計画書をPRするためキャッチーなタイトル、ターゲットとPR媒体のアイデア出し
- ④ 各班発表、投票

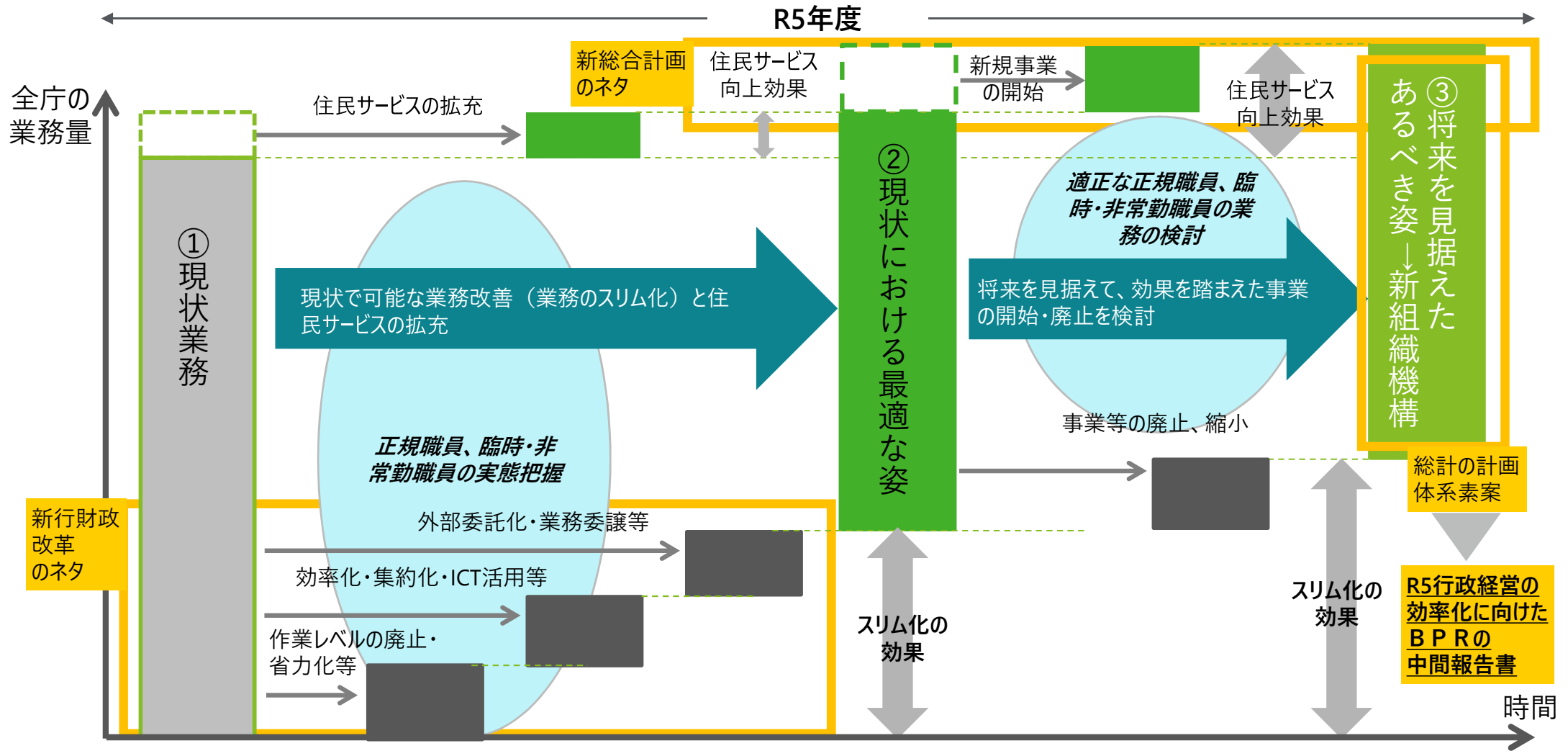
③デザインワークショップ

策定した計画に興味・関心を持ってもらうため計画書のデザインに関して市民からのアイデアを確認します。絵本版の意見もいただくことも想定するため、例えば子育て世代限定のワークショップとし、お子様と一緒に楽しんでいただきます。

行政の計画とは思えないおしゃれなデザインにすると手取りたくなる

■表紙デザイン投票 結果1位

総合計画策定と行財政改革推進の関係性



唐津市総合計画

- 唐津市が目指す将来像を掲げ、その実現のために実施する施策を、体系的・計画的に進めていくための指針
- 平成23年地方自治法改正により、市町村の総合計画(基本構想)策定の義務付けが廃止されたが、市民と行政が協働でまちづくりに取り組む問題提起としての役割を持つなど、今後も最重要視すべき計画



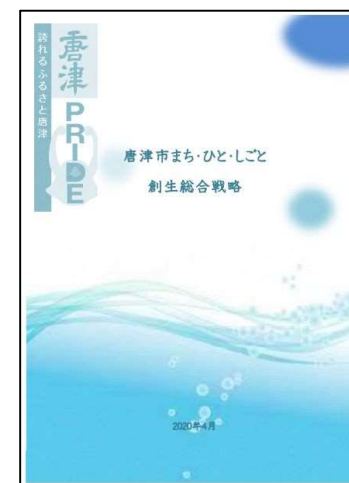
参考: 第2次唐津市総合計画
(平成27年3月策定)

唐津市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 国が進める地方創生の政策で、人口減少・少子高齢化という課題に対し、国と地方が一体となって取り組むための計画
- 市町村は、人口ビジョンや目標を設定し、地域の経済活性化や雇用創出を促進するための施策を策定する。

■今後の基本的方向性

- デジタルの力を活用し、①地方に仕事を作る、②人の流れを作る、
③結婚、出産、子育ての希望を叶える、④魅力的な地域を作る



参考: 第2期唐津市まち・ひと・しごと
創生総合戦略(令和2年4月策定)

まち・ひと・しごと創生総合戦略と総合計画との関係

- (1) まち・ひと・しごと創生総合戦略と総合計画との目的や政策範囲が一致しない
 - (2) まち・ひと・しごと創生総合戦略は、数値目標やKPI(重要業績評価指標)を設定することが適切であるが、総合計画ではそれらが必須ではない。
- 「総合計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、それぞれ単独のものとして策定するのが基本的な考え方

統合による進捗管理の効率化

自治体の総合計画などを見直す際に、それらの計画がデジタルの力を活用した地方創生という目的が明確であり、数値目標やKPIの設定がされるなど、まち・ひと・しごと創生総合戦略としての内容も備えている場合は、両者を1つのものとして作成することができる。

総合計画の数値目標と、まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIを、しっかりと関連付けすることで、効率的な施策の推進が図られると考えている。

まち・ひと・しごと創生総合戦略と総合計画【対応表】(1)

総合戦略の基本目標	総合計画の対応する基本目標	総合計画の対応する施策
1 多様な産業の調和による「しごと」の創生	2 全ての産業が調和して 生き生き働けるまちづくり	1 後継者が育つ魅力ある農林水産業の振興
		2 地域の魅力アップによる商工業の活性化
		3 コスメティック産業をはじめとした企業誘致
		4 再生可能エネルギー関連産業の集積
2 地域資源の輝きが 生み出す「ひとの流れ」 の創生	1 快適な生活と安全・安心の まちづくり	6 安らぎと安心をあたえる住環境の整備
		1 地域の将来を担う人材の育成
	4 生きる力に満ちた人をはぐくむまちづくり	2 自然・歴史・文化を活かした生涯学習環境の整備と地域コミュニティの形成
		5 歴史と文化が輝く観光のまちづくり
	2 文化活動の継承と文化交流の促進	
	3 スポーツ環境の充実とスポーツ交流の促進	
	4 自然、歴史、文化を活かした景観等の整備	

まち・ひと・しごと創生総合戦略と総合計画【対応表】(2)

総合戦略の基本目標	総合計画の対応する基本目標	総合計画の対応する施策
3 若い世代の希望実現による「みらい」の創生	3 生涯を通じてこちよく暮らせるまちづくり	3 安心して出産や子育てができる環境の整備
	6 市民の力を最大限に引き出すまちづくり	1 男女共同参画の推進と、女性も男性も生き生きと輝ける環境づくり
4 市民の力を最大限に引き出す「まち」の創生	1 快適な生活と安全・安心のまちづくり	2 地域防災力の向上と充実
	4 生きる力に満ちた人をはぐくむまちづくり	5 中心部から各地域への交通網の整備
	6 市民の力を最大限に引き出すまちづくり	2 自然・歴史・文化を活かした生涯学習環境の整備と地域コミュニティの形成(再掲)
	6 市民の力を最大限に引き出すまちづくり	2 市民との協働によるまちづくりの推進

唐津市論点データ集

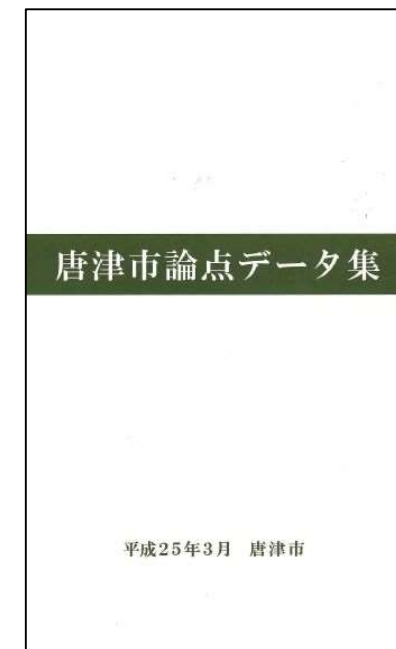
- 市政の現状や課題を様々な角度から見つめ、行政需要や経営資源に関する長期的な変化の見通しを客観的なデータとして整理
- 総合計画や個別計画を策定する際に活用されるとともに、政策立案に向けた議論の資料として使用
- 基礎データ編、個別課題編の2部で構成

■ 基礎データ編

50年先までの将来人口推計など、唐津市の基礎情報を掲載

■ 個別課題編

個別論点をピックアップし、唐津市の現状分析データや、国・県・他市との比較データ等を掲載



参考：唐津市論点データ集
(平成25年3月作成)

論点データ集骨子(案)

I. 人口

1. 人口将来推計 2. 人口動態 3. 人口ピラミッド

II. 生活行動

1. 通勤・通学による人口流動 2. 交通状況

III. 経済・産業

1. 産業 2. 商業 3. 工業 4. 雇用

IV. 都市基盤・生活環境

1. 土地・住宅 2. 環境・衛生 3. 犯罪(刑法犯)

V. 子育て・教育

1. 子育て

VI. 医療・福祉

1. 医療 2. 高齢者福祉 3. 障害者福祉

VII. 行財政

1. 歳入・歳出 2. 財政指標

掲載イメージ

I. 人口

1. 人口将来推計 (1) 将来人口推計

人口は平成7年度頃をピークとして緩やかな減少傾向となっています。また、周辺団体と比較すると、町村を除けば人口・世帯数いずれもやや小さい規模となっています。



参考:唐津市論点データ集(基礎データ編)平成25年3月作成版より

資料7

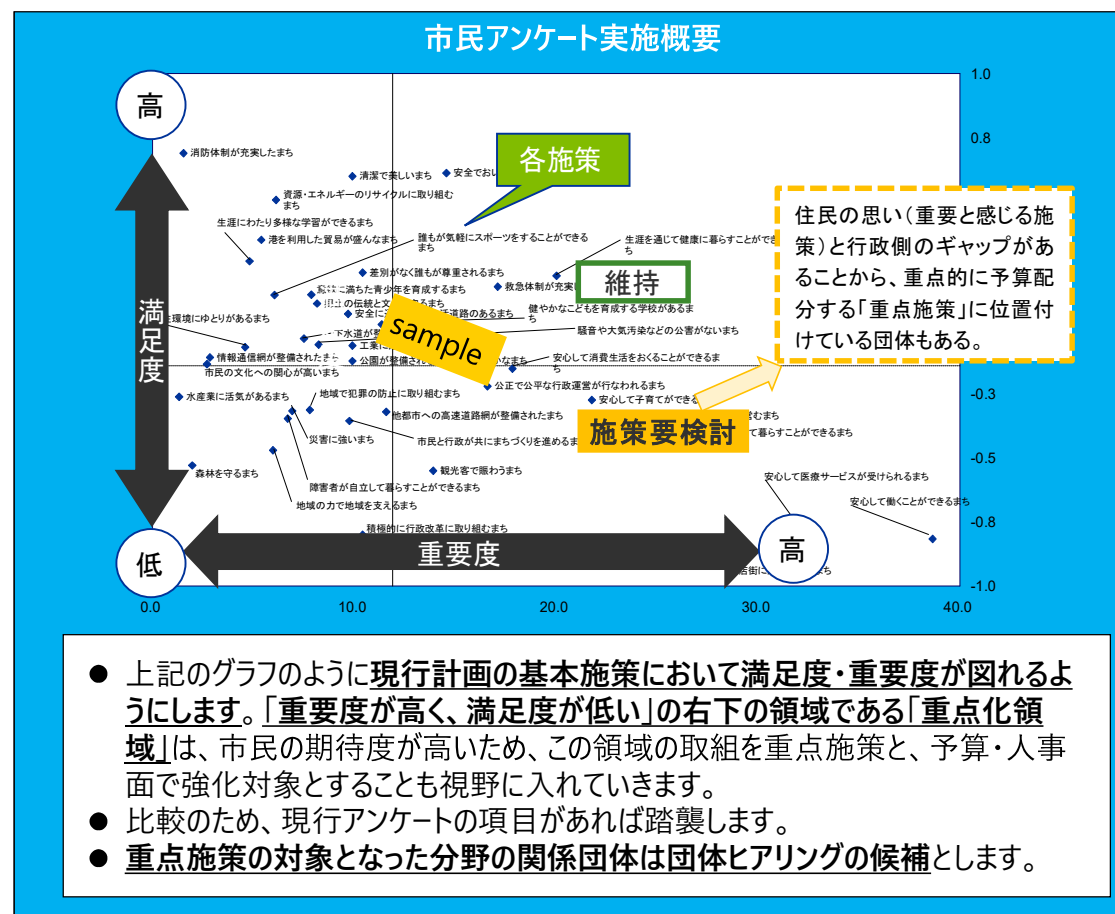
市民アンケート実施方針について

市民アンケートの実施はインターネットによるウェブ投票および紙媒体での実施を検討しています (1/5)

紙媒体による市民アンケート（住民意識調査）実施概要

・市民アンケート（住民意識調査）の概要について以下のように取りまとめました。
 ・現行アンケートの項目を踏襲し、現行計画の基本施策において満足度・重要度が図れる項目にて実施します。

項目	詳細
実施期間	2023年10月頃～2023年11月頃
対象者	3,000人 ・年齢層別における人口割合によって算出した割当人数から無作為抽出
周知方法	・公式HP ・ポスター掲示 ・チラシ配布 ・広報誌 等
実施方法	冊子を郵送 ・返信用封筒・市役所等で回収



市民アンケートの実施はインターネットによるウェブ投票および紙媒体での実施を検討しています（2/5）

インターネットによるアンケート実施の流れ（ステップ1:実施概要）

・市民アンケートの概要について以下のように取りまとめました。
・市民アンケートでは、総合計画の対象期間終了後に、どのような「まち」となっていてほしいかを表す言葉、つまり、未来の唐津市を表すキャッチコピーについて投票を実施することを検討しています。

項目	詳細
実施期間	2023年10月頃～2023年11月頃（回答期間約1か月を想定）
対象者	唐津市民・唐津市への在勤、在学者・唐津市に関心のある人
周知方法	・特設サイト ・公式HP ・ポスター掲示・チラシ配布 ・広報誌 ・プレスリリース等
実施方法	インターネット

・アンケートの質問内容は以下の3点を想定しています。

番号	質問項目	回答方式	備考
1	未来の唐津市を表すキャッチコピーに相応しいと考えるフレーズは次のどれでしょうか	選択式	複数のキャッチコピー案を作成し、そこから1つキャッチコピーを選択いただく
2	質問1でキャッチコピーを選択した理由をお答えください	記述式	上記質問を選択した理由を記載いただく
3	未来の唐津市に向けたメッセージを一言でお願いします	記述式	未来の唐津市に期待することや、未来の唐津市に望むことなどを記載いただく

市民アンケートの実施はインターネットによるウェブ投票および紙媒体での実施を検討しています (3/5)

インターネットによるアンケート実施の流れ (ステップ2：投票依頼)

- ・特設サイトや公式HPでの周知等に加え、市民一人一人への回答訴求を行うため、市民アンケート実施に関するチラシ・ポスターの作成を行います。
- ※チラシ・ポスターの作成について、市民からの公募や市内の学校に通う学生等から募集をすることで、より市民参画が実現できると考えています。
- ※投票ポスターについては市内各施設への掲示を行い、チラシについては各施設への設置とともに広報誌等に同様の内容を掲載することで広く多くの市民へとアンケート回答依頼が実施できると考えられます。

他団体でのインターネット投票ポスター・チラシ事例
 ※団体名や作成者名については黒塗りをしています。
 こちらの事例では団体内にある専門学校の生徒がポスター・チラシを作成しています。



市民アンケートの実施はインターネットによるウェブ投票および紙媒体での実施を検討しています (4/5)

インターネットによるアンケート実施の流れ (ステップ3)

市民アンケート実施に当たってのアンケートフォーム等システムを構築します。
 ※システム構築については外部ベンダーに再委託を実施する予定です。

インターネット投票では、投票状況、コメント及び投票総数がリアルタイムで表示されるようなシステム構築を実施します。

ウェブ投票フォームの作成イメージ

投票状況・コメントイメージ



投票状況画面



緑枠内に各キャッチコピーを選択した理由等、**回答者の想い**を記載することが出来ます。



市民アンケートの実施はインターネットによるウェブ投票および紙媒体での実施を検討しています (5/5)

インターネットによるアンケート実施の流れ (ステップ4)

アンケートの回答結果は回答者の年代・年代別回答内容・それぞれのキャッチコピー案へ投票された方の年代やキャッチコピー案を選んだ理由等回答者の属性がわかる形で取りまとめを実施します。

回答者の年代取りまとめイメージ

n=3,943

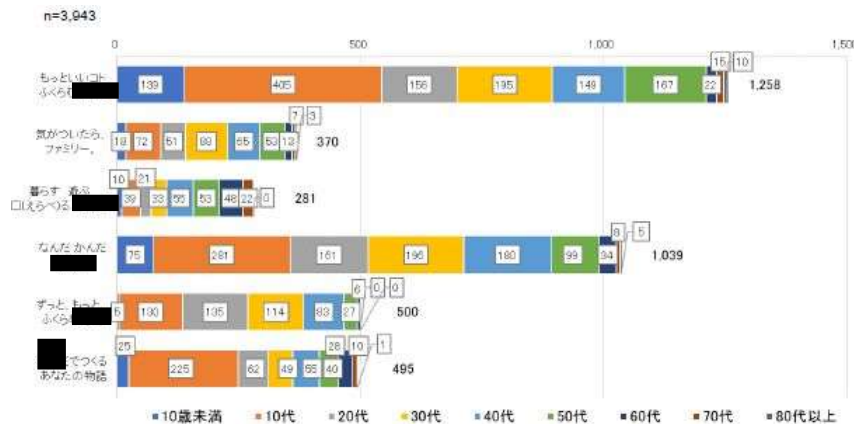


	投票数	割合
10歳未満	272	6.9%
10代	1,152	29.2%
20代	586	14.9%
30代	675	17.1%
40代	587	14.9%
50代	439	11.1%
60代	151	3.8%
70代	62	1.6%
80代以上	19	0.5%
合計	3,943	100.0%

年代ごとの記述式質問の回答取りまとめイメージ

年代	回答内容
10歳未満	大人になってもいいことがあるといいな、と思ったから。
10代	ずっと住んでいたいのは、こんなまちだと思う。
20代	このまちがさらに発展するようなイメージが湧いた。
30代	様々な世代が輝き活躍し、そして生活するこのまちの未来図に重なりました。
40代	ステップアップとして良さそう。
50代	前向きに頑張っていくこのまちそのものですね！
60代	町田への期待、ワクワク・ドキドキ感が感じられました。
70代以上	町田市に住めば希望が持てる感じ

回答の年代別投票先取りまとめイメージ



※取りまとめ時は主な意見をピックアップし、参考資料としてすべての回答を記載することを想定

資料8



唐津市
職員による次の10年で行う取り組みに係るアンケート結果
分析報告書

2023年7月

目次

1. 次の10年で行う取り組みに係る総論	3
<hr/>	
2. 次の10年で行う取り組みに係る各論	8
<hr/>	
2-1.【1生活・環境】	9
<hr/>	
2-2.【2産業振興】	12
<hr/>	
2-3.【3保健福祉】	15
<hr/>	
2-4.【4教育・人権】	17
<hr/>	
2-5.【5観光・文化・交流】	19
<hr/>	
2-6.【6市民協働・行政運営】	21
<hr/>	

1.次の10年で行う取り組みに係る総論

1-0.職員による次の10年で行う取組アンケート（各部提案の検討）に関する経緯等

I. 方針と経緯等

4/17（月） 各部局・市民センターへ照会〔提出期限：5/26（金）〕

【作業方針】

- 計画策定の初期段階において各部が目指すべき将来像を描き、それを実現するために何を行うべきか、今後10年で必要となる取組を検討する。
- 市民と行政が協働で作り上げるという認識をしっかりと持ち、第3次総合計画に掲げるべき取組を各部で検討し、今後の計画策定につなげる。
- 自所属以外で行う取り組みについても提案することができる。

6/13（火） 各部提案の検討に関する再確認

各部再確認による提案内容の補強及び修正を依頼

II. とりまとめ方法

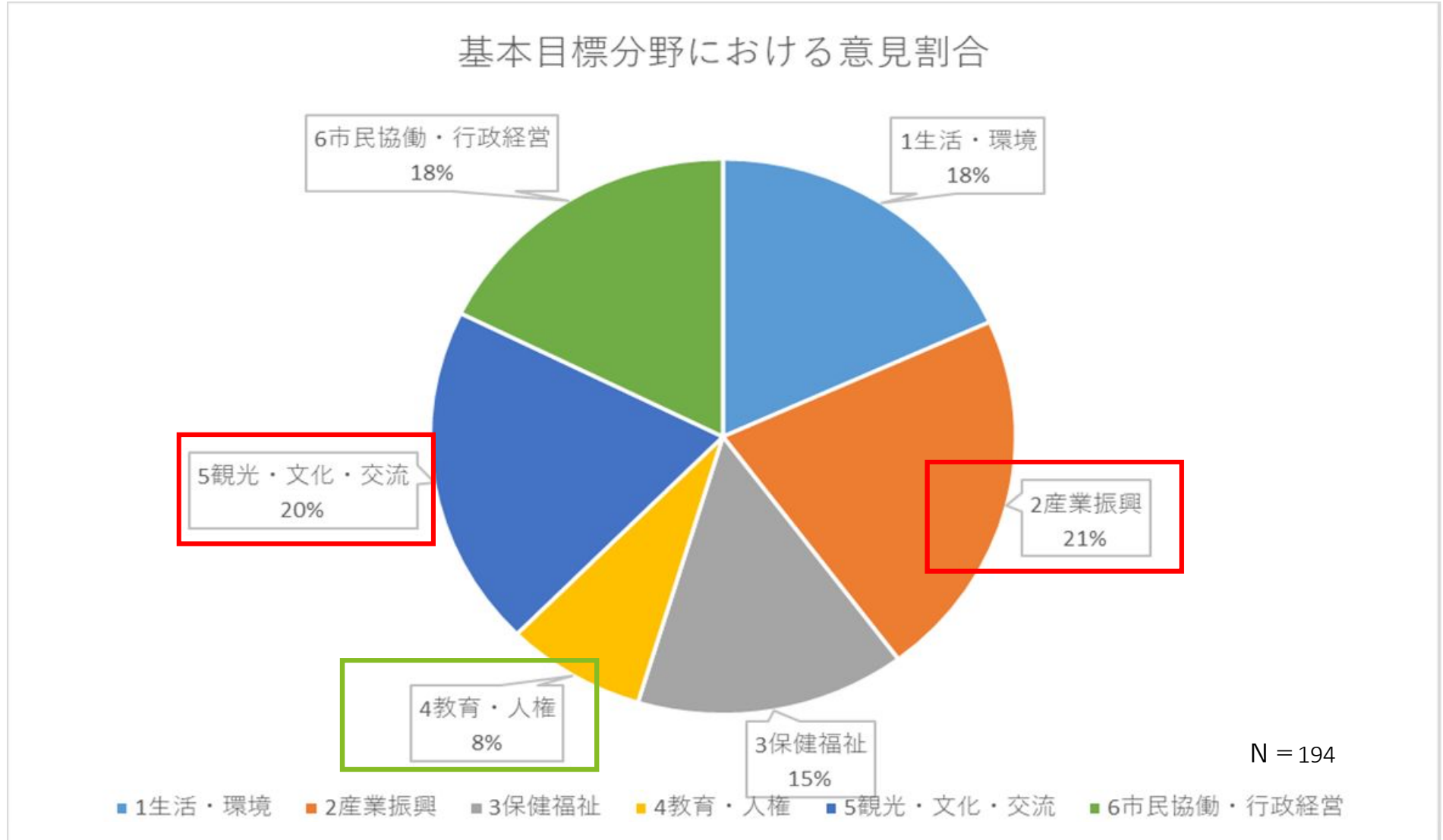
各部局からの回答を、現総合計画（第2次唐津市総合計画）に掲げる基本目標1～6に分類のうえ傾向を整理

- 基本目標1 「快適な生活と安全・安心のまちづくり」……………【生活・環境】
- 基本目標2 「全ての産業が調和して生き生き働けるまちづくり」…【産業振興】
- 基本目標3 「生涯を通じてここちよく暮らせるまちづくり」……………【保健福祉】
- 基本目標4 「生きる力に満ちた人をはぐくむまちづくり」……………【教育・人権】
- 基本目標5 「歴史と文化が輝く観光のまちづくり」……………【観光・文化・交流】
- 基本目標6 「市民の力を最大限に引き出すまちづくり」……………【市民協働・行政運営】

- 現総合計画を基準に整理し、現総合計画に掲げた施策の取り組み状況の振り返りを今後行う。
- それにより新たな取組のみならず、引き続き取り組むべきものとして残された課題を整理する。
- 注目度の高い取組は、今後、重点的に取り組むべき施策の候補として市民参画や各会議体による深堀りを行う。

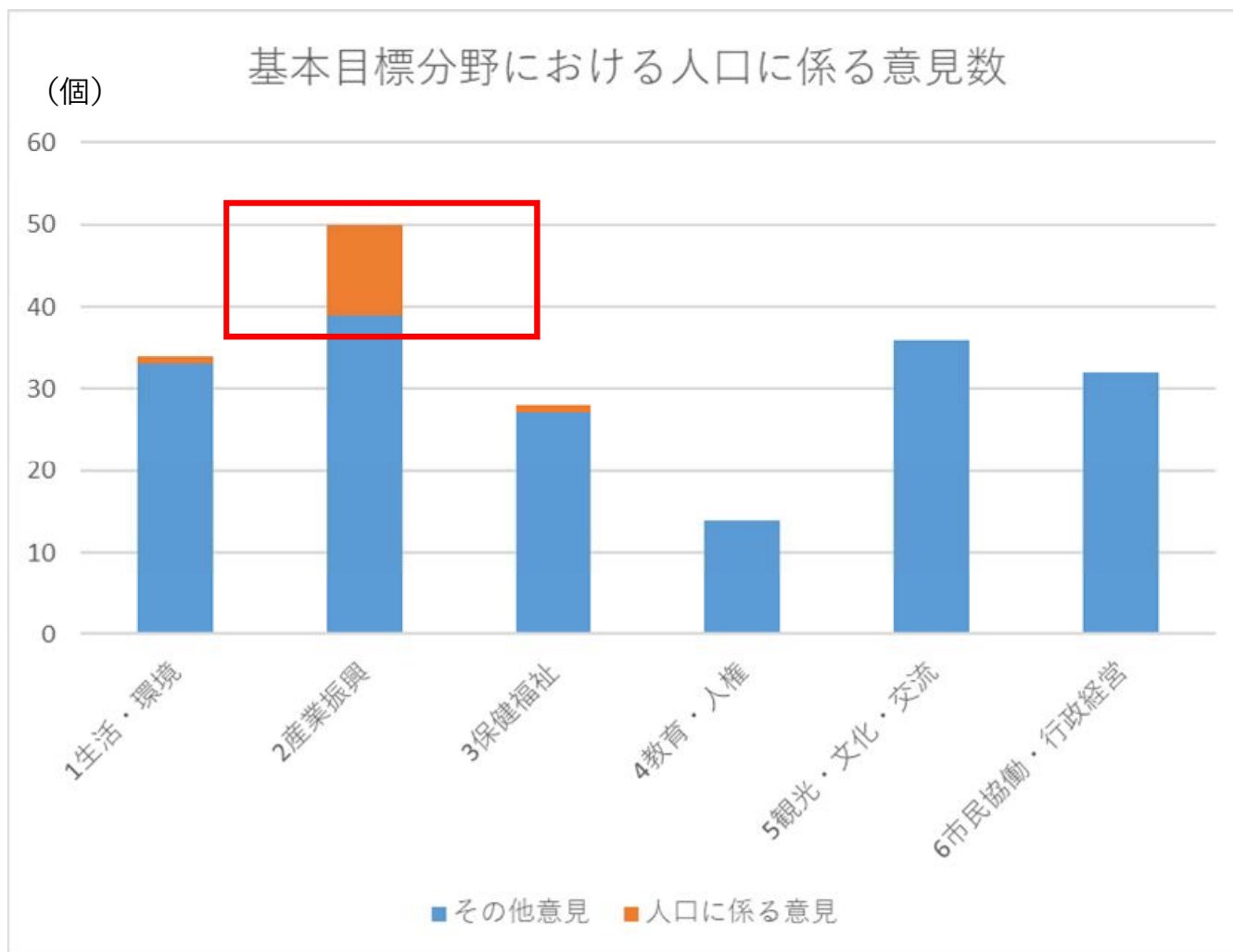
1-1.【総合計画】次の10年で行う取り組みに係る庁内注目度の傾向（基本目標別）

今後の取り組みについては、有効回答延べ194のうち、「2産業振興」「5観光・文化・交流」への注目度が比較的高く、経済の地域循環への意識が高いと推察される。一方、「4教育・人権」の注目度は比較的低く、次世代育成や多様性への意識醸成が求められる。



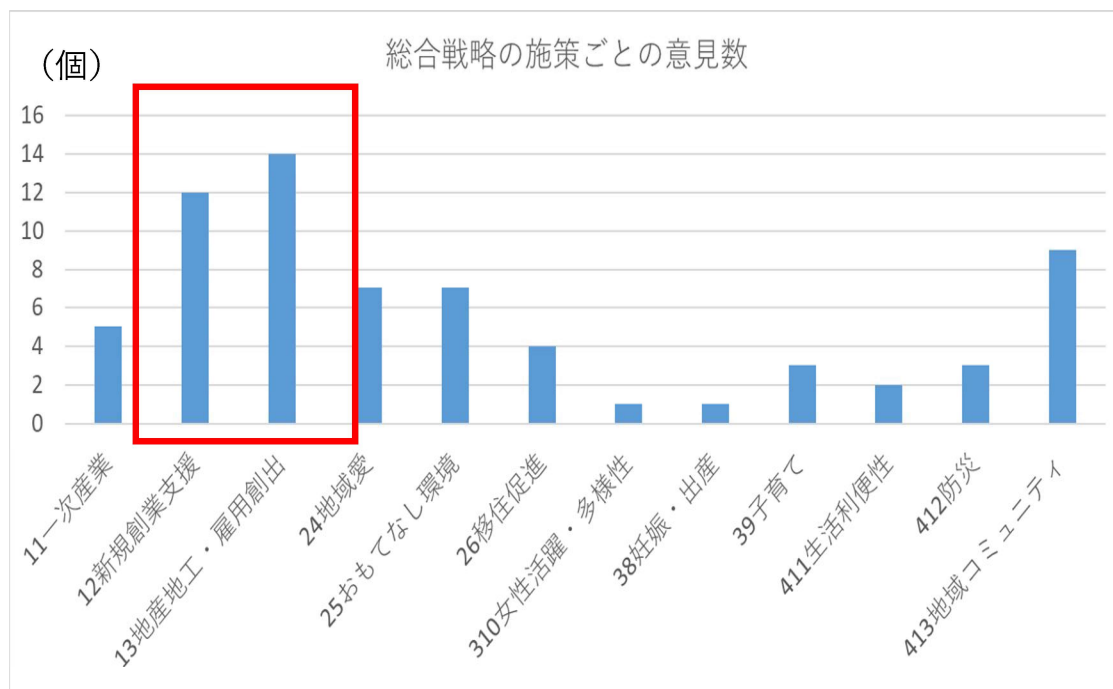
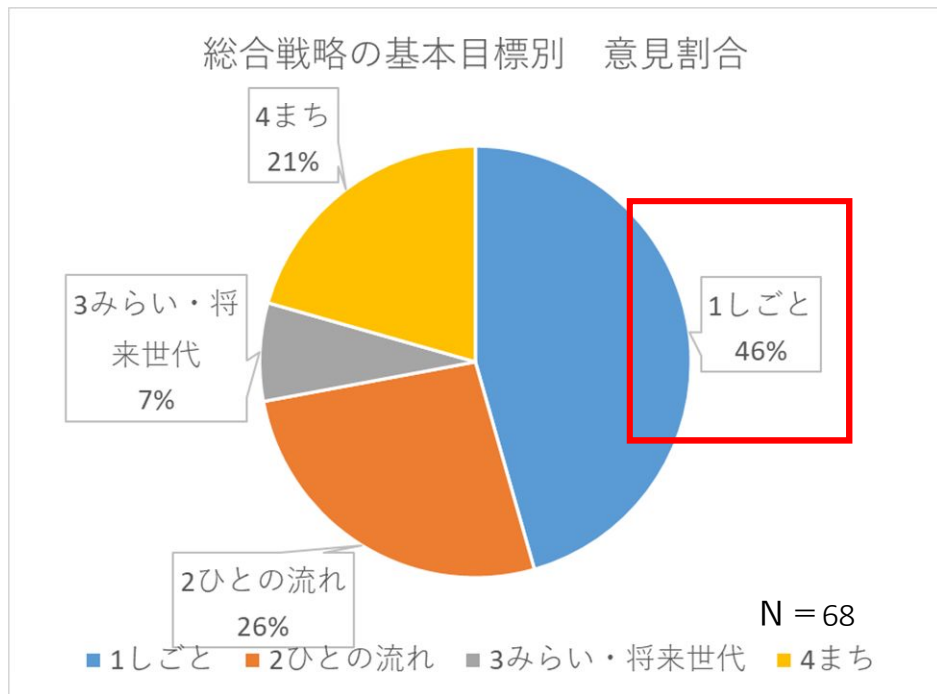
1-2.【総合計画】次の10年で行う取り組みに係る人口問題に起因する意見（基本目標別）

今後の取り組みについて、本市において対応が急務である人口減少に対する対策など、人口問題に起因する意見は「2産業振興」に集中している。今後本市の持続可能な姿を総合計画で描き、総合戦略も十分に踏まえることに鑑みても、経済分野への期待は大きい。



1-3.【総合戦略】次の10年で行う取り組みに係る庁内注目度の傾向（基本目標別・施策別）

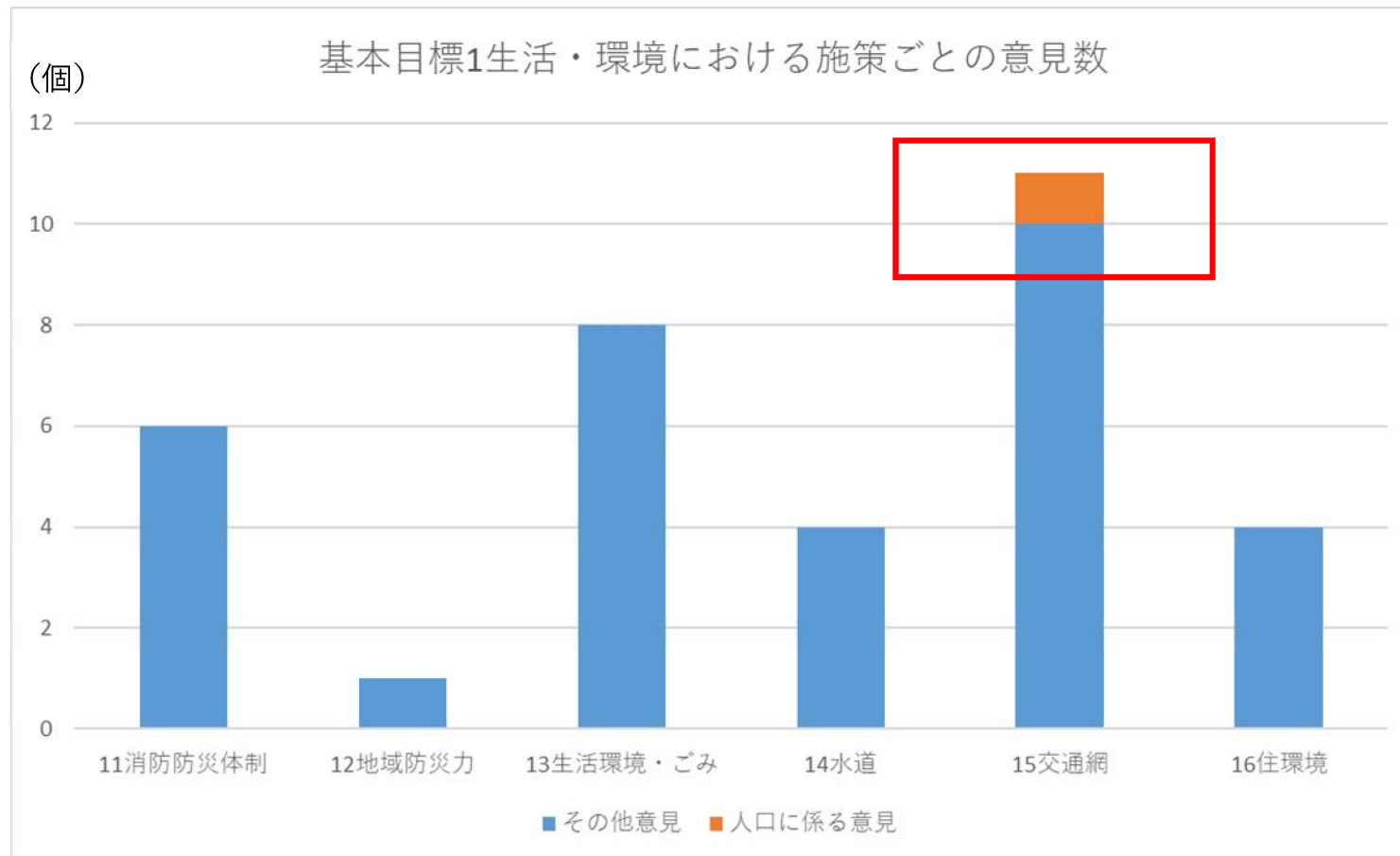
同意見を総合戦略観点で確認した結果、約1/3の68意見が総合戦略にも関わる意見であり、そのうち約半分が「1しごと」に係る意見であった。施策別に確認すると「13地産地工・雇用創出」「12新規創業支援」に注目度が高く、総合戦略の観点からも、経済分野への期待は大きい。



2.次の10年で行う取り組みに係る各論

2-1.【1生活・環境】次の10年で行う取り組みに係る庁内注目度の傾向（基本施策別）

比較的に「15交通網」に係る意見が最も多く、唯一人口に係る意見もされていることから、重点的な精査を実施し、次期計画に反映させる必要がある。



2-1.【1生活・環境】次の10年で行う取り組みに係る新しいもしくは特徴的な内容と論点

カーボンニュートラルに係る意見、消防本部を中心とした職員のWell-beingの観点の意見が複数上げられている。

意見の観点	内容
住民のWell-being	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時における自助公助の意識向上 ○学校給食の生ごみなどを使ったバイオガス発電 ○災害時のエネルギー確保 ○広域水道 ○道路のユニバーサルデザイン
職員のWell-being	<ul style="list-style-type: none"> ○消防職員の教育・職場環境の充実 ○消防の広域化
外的機会	<ul style="list-style-type: none"> ○国において消防の広域化及び連携・協力の更なる推進が示されている ○新たなCO₂吸収源として「ブルーカーボン」の国際的な注目 ○国の2050年カーボンニュートラル宣言 ○改正水道法による国の広域水道の推進 ○バリアフリー法による特定道路
外的脅威	<ul style="list-style-type: none"> ○猛暑や豪雨など、地球規模での温暖化が原因とみられる異常気象による災害の多発

■論点ほか

○産学官民連携によるブルーカーボンを活用した取り組み

・研究成果の社会実装を目指す高等教育機関、地球環境への貢献を目指す企業、海洋教育を推進する小学校と地元漁業者の有志と共に、ブルーカーボン（アマモや海藻など、海の生物の作用で海中に取り込まれる炭素）生態系の育成に取り組む。産学官民が連携しながら取り組むことで、海洋・環境教育をはじめ、漁業の持続性、企業の社会貢献など、それぞれの立場においてさらに多くのメリットを生み出すことを企図する。さらに、吸収したCO₂を企業と売買する認証制度『Jブルークレジット』の認証を目指す。

○環境人材育成

・域内の企業（事業者含む）、研究・教育機関、行政、市民、金融機関を対象にカーボンニュートラル及び脱炭素の実現に向けて、正しい知識や情報を持つ人材育成を目的としたセミナーやシンポジウム等を開催する。また、ワークショップ等を開催し、次世代に向けた唐津市内での新エネルギーに関する取組を議論することで、業種・組織を超えた連携及び意識醸成を図り、またその拡大を目指すことで意識変容及び行動変容に繋げていく。

2-1.【1生活・環境】次の10年で行う取り組みに係る新しいもしくは特徴的な内容と論点

■論点ほか

○域内GX実現に向けた取組に関する企業支援

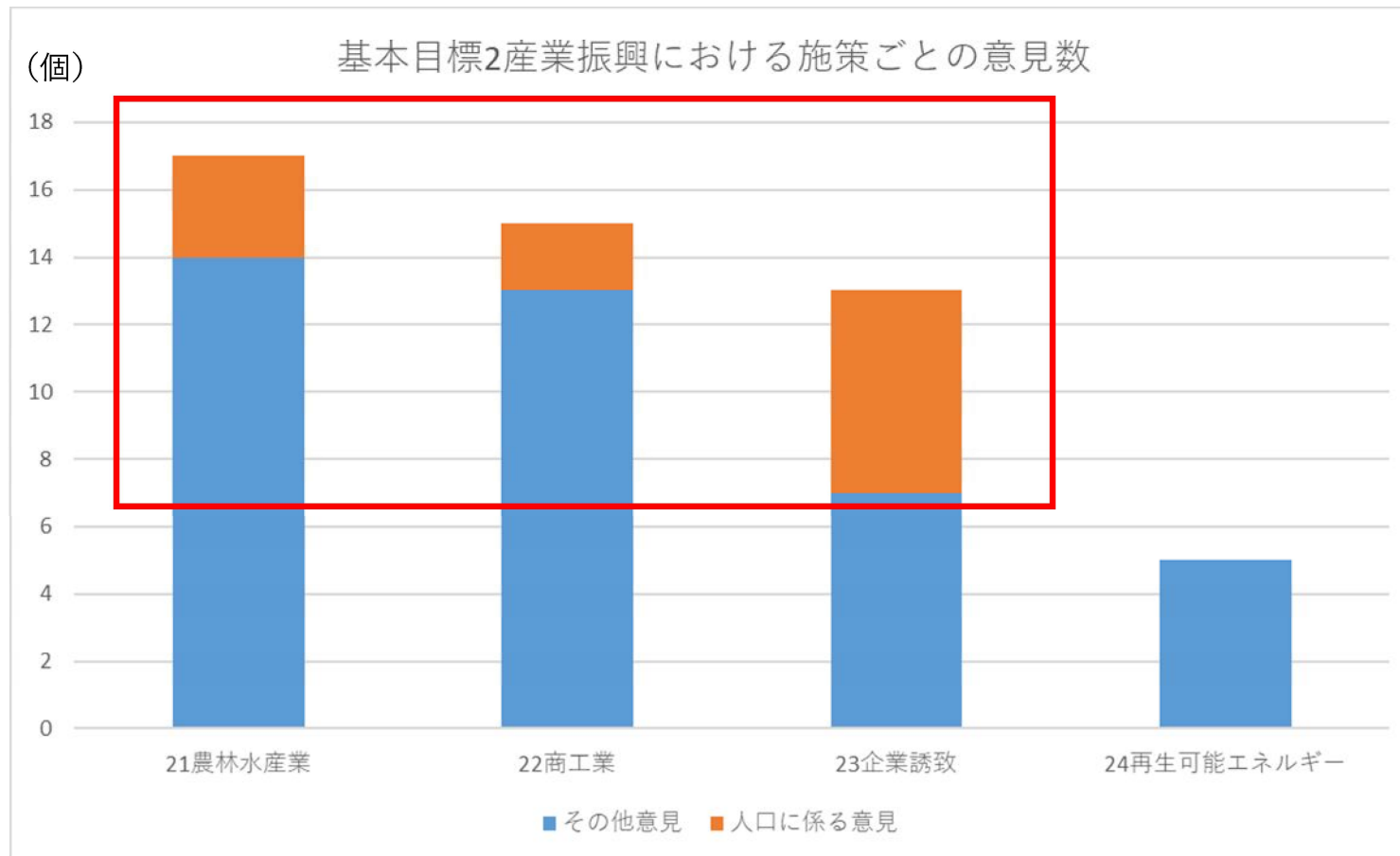
・域内GX実現に向け、域内企業に対するヒアリング等を通じ、企業方針や新エネ・省エネ設備導入の課題等を洗い出し、企業のニーズに沿った支援（例えば導入までの伴走支援やワンストップ相談窓口の設置等）を行うことで、域内の優良事例を創出する。また、そのような優良事例を積み上げながら、横展開を目指し事例集を作成・PRすることで他企業の意識変容及び行動変容を促す。

○公共交通

・現総合計画では、公共交通に関して深く触れていない。次期総合計画では十分な議論が必要。

2-2.【2産業振興】次の10年で行う取り組みに係る庁内注目度の傾向（基本施策別）

複数の基本施策に人口に係る意見があげられていることから、基本施策自体を重点施策の候補とし、次期計画に反映させる必要がある。



2-2.【2産業振興】次の10年で行う取り組みに係る新しいもしくは特徴的な内容と論点

物価の高騰やコスト上昇、物流業界2024問題など外的脅威が比較的多く意見されており、本市の産業振興における中長期的な政策の方向性に期待がかかる。

意見の観点	内容
住民のWell-being	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源と漁港施設を活用した海業の取り組みへの推進 ○企業を巻き込んだ遊休農地の管理 ○農林水産業を観光の産業としても位置づけを高めるとともに、農林水産物の消費額を増やし、市内の総生産額の向上につなげる。 ○大手口3階DXイノベーションセンターが地域づくり課から借用している場所（R6年度まで）に、新たに新規事業創出を目的としたコミュニティスペース、コワーキングスペース、ミーティングルームなどを設置 ○DX等時代の潮流に対応した事業者の経営強化 ○デジタルデータを活用した地域商業の活性化・商店街の等の振興 ○道の駅厳木のさよひめ像にプロジェクションマッピング等を使用して唐津市の情報を発信、併せて、近接するきゅうらぎ温泉佐用姫の湯の入館者を増やす仕組みづくり ○唐津でのワーケーション促進 ○ヘロブスカイト太陽電池の研究や開発を行っているベンチャー企業や研究企業・機関、人工ダイヤモンドによる半導体の研究や開発を行っているベンチャー企業や研究企業・機関の誘致。
職員のWell-being	
外的機会	<ul style="list-style-type: none"> ○漁港の用途拡大や漁港施設等活用事業制度を盛り込んだ漁港漁場整備法の改正や、それに伴う水産業協同組合法、遊漁船業の適正化に関する法律の一部改正案が令和5年3月に閣議決定。 ○農業分野における企業・法人参入推進チームの設置（県） ○農業経営基盤強化促進法の改正 ○リモートワークの一般化 ○熊本に台湾半導体大手「TSMC」が進出するなど、半導体業界の活性化 ○国スポの開催 ○2020年6月に可決・成立した「強靱かつ持続可能な電気供給体制の確立を図るための電気事業法等の一部を改正する法律」により電気事業法等の関連法令を改正するなど、災害に強い分散型エネルギーシステムの導入拡大のための環境整備が進んでいる
外的脅威	<ul style="list-style-type: none"> ○物価の高騰、コスト上昇 ○物流業界の2024問題：運転手の労働環境の改善基準告示の改正に係る問題、運転手不足 ○デジタル田園都市国家構想交付金を活用したオフィス整備や企業誘致を行う自治体が増えてきている

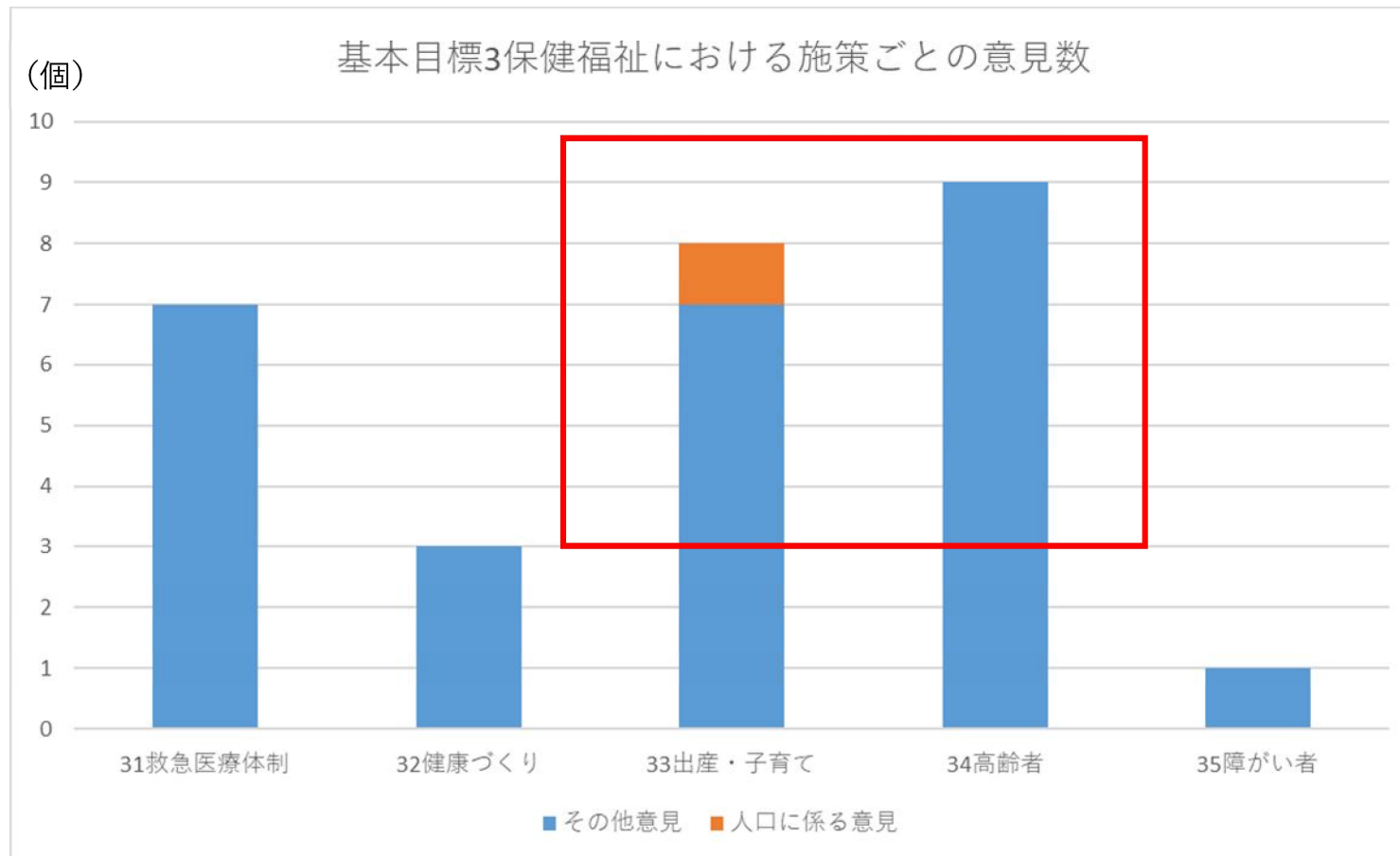
2-2.【2産業振興】次の10年で行う取り組みに係る新しいもしくは特徴的な内容と論点

■論点ほか

- 共同利用施設の更新や長寿命化に対する支援、広域化（再編統合）の推進
 - ・国庫補助を活用した施設の更新・長寿命化事業について、市独自の取り組みとして進めるべきことはないのかも含め、広域化（再編統合）に関して具体的な検討が必要。
- 地元就職
 - ・具体的な取り組みについて。
- 農林水産業が活性化すれば観光的な魅力がアップするか。
- 唐津焼産業に対する総合的支援の拡充
 - ・産業振興と文化芸術の両面からの振興が必要。
- ワーケーション
 - ・ワーケーションを促進するための具体的取組みについて。
- 若者向けの娯楽施設整備について。
- 「日本一コスメビジネスがしやすいまち」を目指す。
- 産業振興と防災分野の複合
 - ・2020年6月に可決・成立した「強靱かつ持続可能な電気供給体制の確立を図るための電気事業法等の一部を改正する法律」により電気事業法等の関連法令を改正するなど、災害に強い分散型エネルギーシステムの導入拡大のための環境整備が進む。

2-3.【3保健福祉】次の10年で行う取り組みに係る庁内注目度の傾向（基本施策別）

「34高齢者」に係る意見が多く、今後の高齢化の社会情勢においても魅力を失わないまちづくりが求められる。また、出産・子育てについては、人口問題に寄与する展開を意識していく必要がある。



2-3.【3保健福祉】次の10年で行う取り組みに係る新しいもしくは特徴的な内容と論点

医師の働き方改革が迫る中、本市の保健福祉分野や医療体制を充実させていく必要がある。

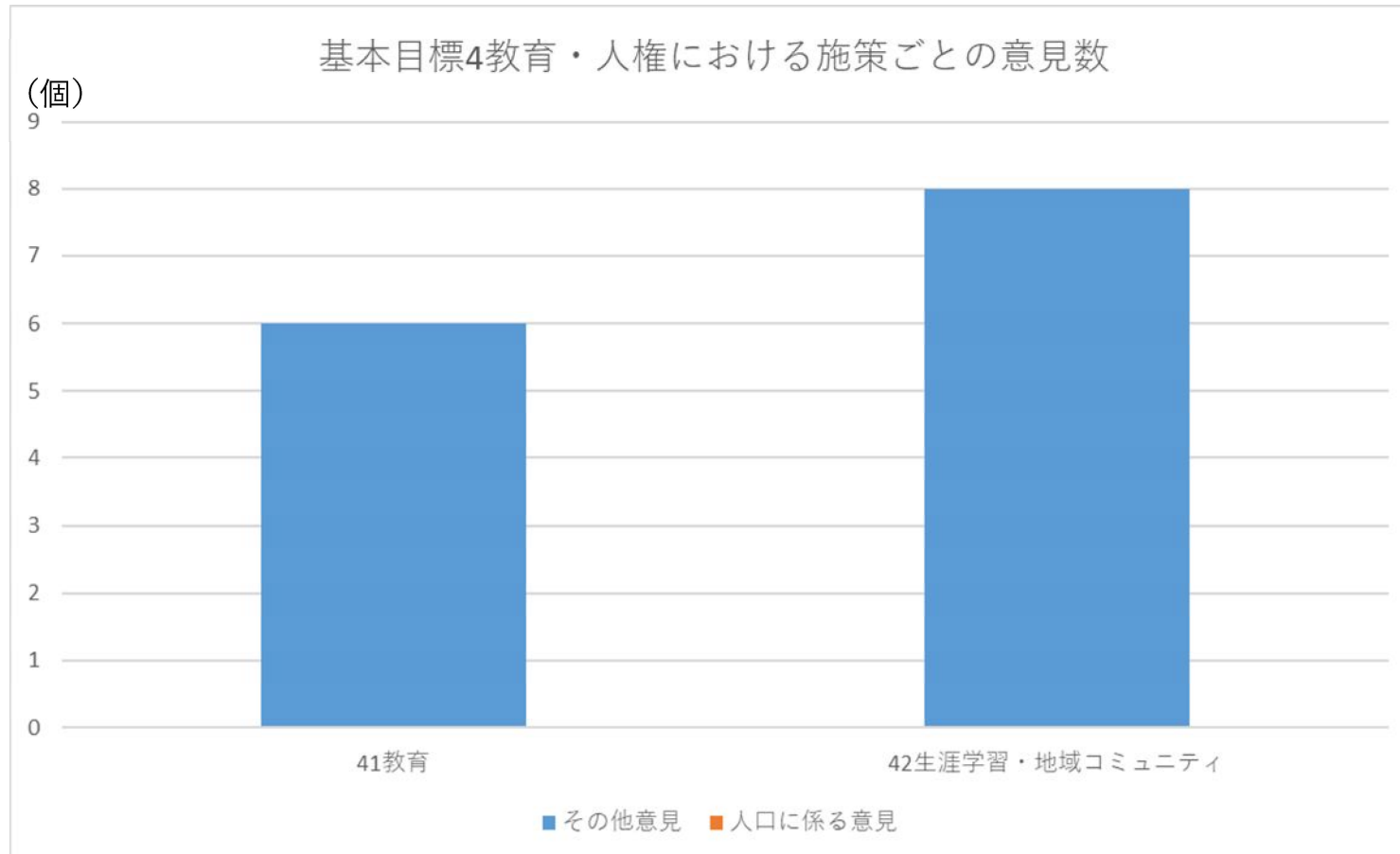
意見の観点	内容
住民のWell-being	<ul style="list-style-type: none"> ○北部医療圏内で医療サービスが完結する体制を継続的に維持する ○定年退職後の住民が、地域の子どもたちを預かる取り組み ○障がい児保育施設等の受け入れ補助の要件の見直しを実施し、保育士等の確保を行う ○育児と仕事の両立を支援する体制づくりの面で、特に、離島における保育（所）機能の維持・構築に関しては、地域と民間が上手くいくよう積極的に市が関与し、独自の支援策を展開する
職員のWell-being	<ul style="list-style-type: none"> ○「基幹相談支援センター」の設置
外的機会	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年5月31日佐賀県と唐津市で「身近な医療の提供に関する連携協定」を締結
外的脅威	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年4月医師の働き方改革適用

■論点ほか

- 定年退職後の住民が、地域の子どもたちを預かる取り組み
 - ・具体的な内容について
- 介護保険制度について、市の特徴を踏まえ、特に力を入れる部分について
- 買い物サポートと高齢者支援がセットになった場合の庁内実施体制について（所管部署ほか）

2-4.【4教育・人権】次の10年で行う取り組みに係る庁内注目度の傾向（基本施策別）

「43人権」については、基本施策レベルで唯一意見がないことから、本市の今後の方向性における住民の需要度や、組織体制も含めた分野統合など、効果的な政策展開のための検討が求められる。



2-4.【4教育・人権】次の10年で行う取り組みに係る新しいもしくは特徴的な内容と論点

AIとの共存については、教育分野において脅威となるか機会となるかは、今後の市の政策展開が次第のところもあり、また学校統合など教育観点のみならず行政としての大きな判断をする案件が多い。

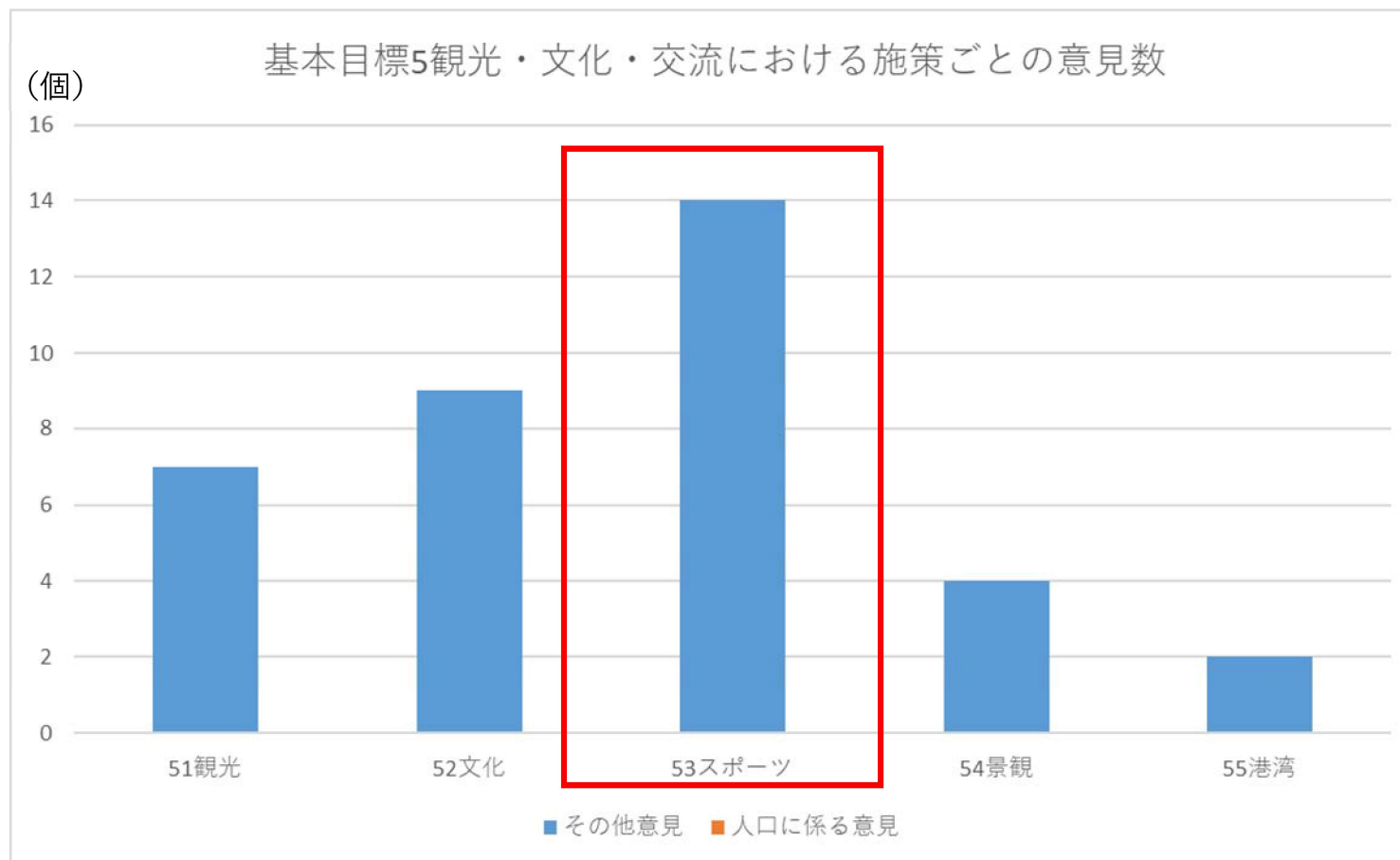
意見の観点	内容
住民のWell-being	○タブレット端末以外の多様な学びを保障する環境整備（例：フリースクールや放課後デイサービスの支援拡充、不登校対策特認校、島留学、教室不足等） ○教育効果及び適正な行財政運営の視点も考慮し、現在まで主に複式学級の回避・解消を目的とした学校の統合を推進してきており、今後は学校統合も見据えた1学年1学級校及び大規模校への対応を検討 ○持続可能な“わがまち唐津”の創り手育成
職員のWell-being	○教員不足の解消
外的機会	○平成18年、19年、唐津市立学校通学区域審議会に対し「小中学校の通学区域の在り方」について諮問し答申を受けた
外的脅威	○AIとの共存

■論点ほか

- 学校統合の今後について
- 人材育成の今後について
- 公民館における「学びの場」+「地域づくり」としたコミュニティセンターへの改革の今後について
- 近代図書館の今後について

2-5.【5観光・文化・交流】次の10年で行う取り組みに係る庁内注目度の傾向（基本施策別）

SAGAスポ2024が開催されることもあり、「53スポーツ」の注目度が高い。SAGAスポ2024終了後に公表される次期計画であることを十分踏まえ、スポーツ分野を中心とした本市の活性化の方向性を長期的観点で精査していく必要がある。



2-5.【5観光・文化・交流】次の10年で行う取り組みに係る新しいもしくは特徴的な内容と論点

観光においては、クルーズ寄港の再開の機会を活かした展開の整理が求められる。

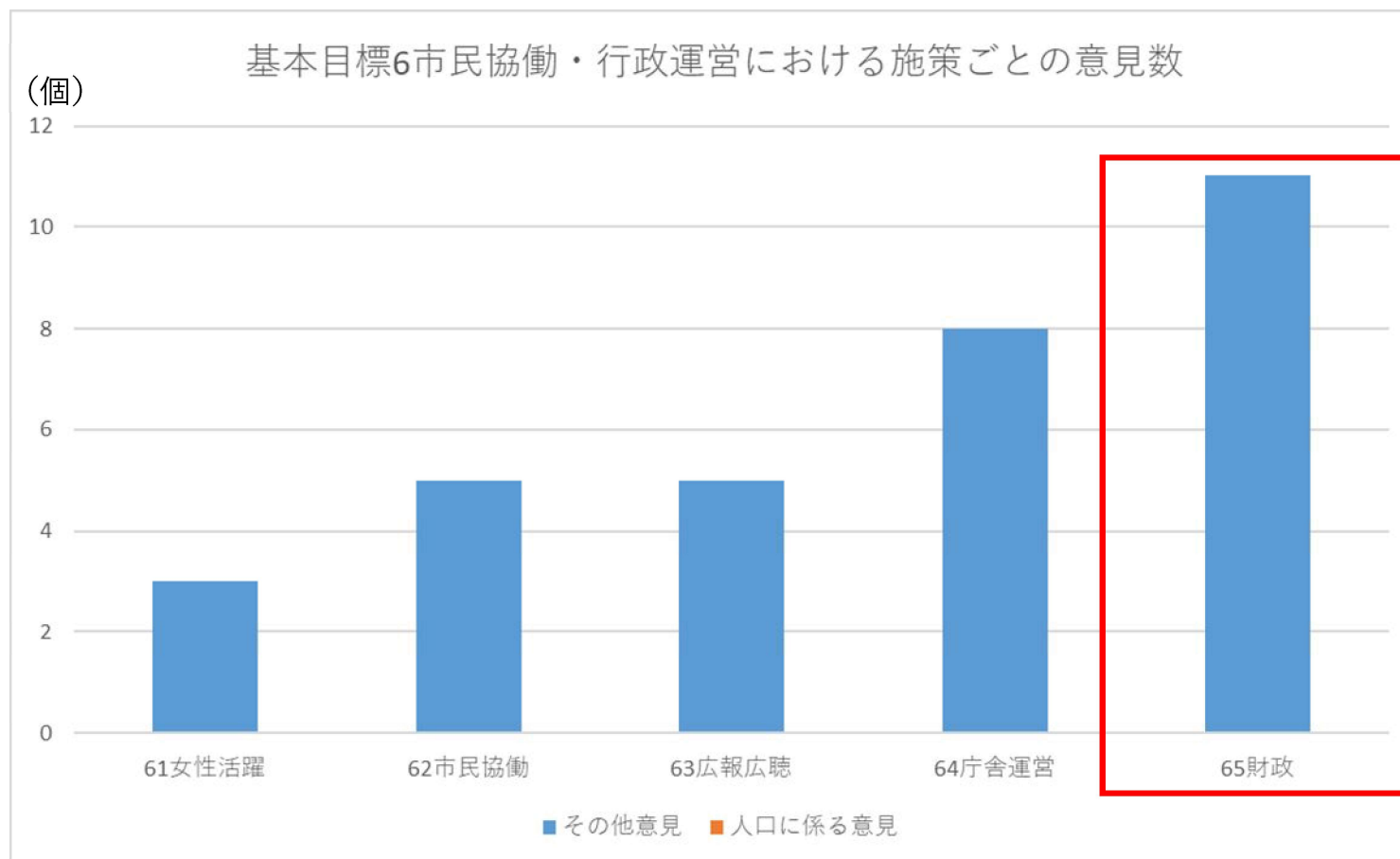
意見の観点	内容
住民のWell-being	<ul style="list-style-type: none"> ○玄海灘沿岸部をつなぐ観光ルート等の構築 ○SAGAスポ2024 トライアスロン競技のレガシー化 ○松浦河畔公園再整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ボートレース場対面の駐車場の利用率が低い、若者向けのスポーツ施設などのニーズが高まっている、ボートレース場との連携強化 ○クルーズ船乗客の中心市街地への誘導のためのインフラ整備 ○「みなとオアシス」を中心とした港の賑わいづくり
職員のWell-being	<ul style="list-style-type: none"> ○体育施設の一元管理
外的機会	<ul style="list-style-type: none"> ○クルーズ寄港の再開 ○SAGAスポ2024の開催 ○文化・芸術におけるデジタルを踏まえた表現の変化
外的脅威	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍における全国旅行支援などの支援制度の終了

■論点ほか

- 今後の取組み候補の精査について
 - ・広域連携によるプロモーションやテーマ別周遊ルートの設定
 - ・新たな需要を喚起するための受入環境の整備
 - ・DMOやDMCなどを設立し、民間主導のマーケティングやマネージメントを展開
 - ・学識経験者や文化芸術団体、市民等による評価委員会を設置
 - ・古民家を再生し、魅力的な城下町の街並を再現
 - ・VR、ARを使用したデジタルコンテンツによる興味喚起
 - ・武将風オブジェ、石垣風土台を製造し、道標や新しい街の象徴として設置
 - ・観光客等に対する街の受け皿機能の育成を支援するため、地域・地元団体とのワークショップの実施
 - ・史跡の周遊促進のため、複数のサイクリング・ウォーキングコースの作成
- SAGA2024レガシーを活かしたスポーツ振興と地域活性化について

2-6.【6市民協働・行政運営】次の10年で行う取り組みに係る庁内注目度の傾向（基本施策別）

行政運営の根幹である「65財政」においては意見が最も多い。行政経営の効率化や職員の適正配置を実施し、職員のWell-beingも実現することが、結果、市政に良い影響を与えることを整理しながら進めていく必要がある。



2-6.【6市民協働・行政運営】次の10年で行う取り組みに係る新しいもしくは特徴的な内容と論点

市民協働における自発、自立、持続に繋がる地域づくりは、住民だけでなく、職員のWell-beingも踏まえた整理が求められる。

意見の観点	内容
住民のWell-being	<ul style="list-style-type: none"> ○自発、自立、持続に繋がる地域づくり ○市民センター ○DX ○計画的な財政運営
職員のWell-being	<ul style="list-style-type: none"> ○自発、自立、持続に繋がる地域づくり ○FAQチャットボット（インターネット上の総合案内窓口） ○市民センター ○DX ○行政のスリム化 ○組織、仕事のやり方を見直し、類似団体と比較し、平均ぐらいの職員数に ○計画的な財政運営
外的機会	<ul style="list-style-type: none"> ○ダイバーシティ（多様性）に係る理解の促進 ○デジタル化の進展 ○全国的なスマートシティの進展 ○他市の市民センターの複合化
外的脅威	

■ 論点ほか

- 自発、自立、持続に繋がる地域づくり
 - ・具体的な内容について
- 市民センターの今後について
- 市民サービスの観点のDX,庁内のDXについて